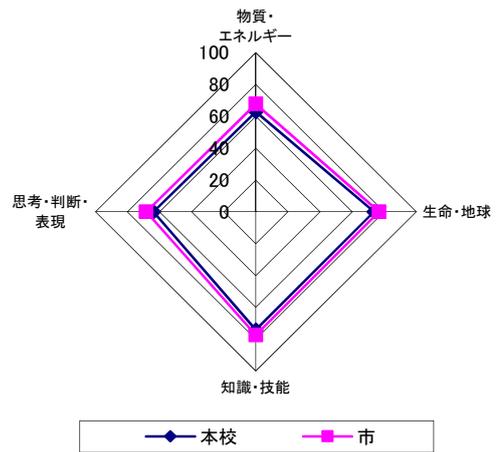


宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.8	67.8	64.1
	生命・地球	73.6	76.7	78.3
観点別	知識・技能	74.1	77.4	78.3
	思考・判断・表現	63.8	68.3	66.2



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●糸を引いていくと振り子の周期が変わっていくかを問う設問の正答率は33.3%で、市の平均を11ポイントと大きく下回っている。 ●学習内容が定着されていない。特に5年生の学習内容を忘れている。 ●「物の燃え方」などの問題のように、実験結果から事象を考察しそれを説明することが難しく、課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に復習や苦手なところの補習を行い、知識の定着を図る。 ・体験的に学習する場を意図的に設け、児童の理科に対する興味関心を高める。 ・演示実験による知識の習得ではなく、一人一人が実験、観察に加わり、体験的に測定や観察による記録を取り、他のグループと比較、考察する学習を日常化させることで原理、法則を理解させる。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○「天気の変化」では、正答率がおおむね市の平均を上回っている。特に気象衛星の雲画像と雨量情報を関連付ける問題では、市の平均を6.1ポイント上回った。 ●「生物と環境」では、葉を日光に当てる前後での酸素と二酸化炭素の割合の変化に関する設問の正答率が39.7%と低く、市の平均も12.6ポイントと大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験をもとにした知識が定着しやすいことがより鮮明となる結果となった。日常生活での経験を結び付けて実験結果を考察するといった機会をさらに増やしていく。 ・実験、観察の目的を明確にするとともに、実験前後の数値を正しく読み取り、比較・検討して文章化するという活動を通し、呼吸や光合成に関する基礎的な知識を身に付ける。 ・理科的な用語や既習事項を振り返るといった復習の時間を設け、知識のさらなる定着を図る。